

## 令和7年度 兵庫陶芸美術館運営委員会 議事概要

日 時：令和7年8月7日（木） 13:30～15:00

場 所：兵庫陶芸美術館 研修棟2階談話室

出席者：運営委員8名、県民生活部芸術文化課2名、  
兵庫陶芸美術館6名

### 【報告、協議事項】

○令和6年度事業実施結果、令和7年度事業実施計画

○今後の事業運営のあり方等

### 【協議事項と主な意見】

1. 来館者の増加に向けた新たな戦略（新たな誘客ターゲット層と、それに応じた誘客方法等）
  - ・ SNS対策はこれからますます重要になるので、館内に撮影可能な場所を設けて、来館者自身による写真等の拡散を図るべき。
  - ・ 兵庫陶芸美術館は交通の便に難があるので、コンサートなど、何かにかこつけて行こうと思ってもらえるような魅力づけが大事である。
  - ・ 展覧会事業以外にも、その関連事業やコンサートなどのイベントによって、展覧会入館者を上回る集客ができてきている現状は素晴らしい。今後もどんどんやるべきである。
  
2. ポスト大阪・関西万博も見据えた丹波焼の里活性化のための地域連携方策、窯元・関係団体との連携など）
  - ・ 神戸空港の国際化を受けて、今後、アジアからの来県者がさらに増える。また、丹波焼は特に欧米系に評価が高い。神戸空港や関西国際空港などで、サイネージ広告を出して、丹波焼の里への誘客を図ってはどうか。
  - ・ 兵庫県芸術文化課が開催している「高校生文化部フェス in HYOGO」において、電動ロクロ体験や丹波焼の器での呈茶を実施して、発信力のある高校生向けに丹波焼のPRはどうか。
  - ・ こんだ薬師温泉に来年度に道の駅ができる。陶の郷、兵庫陶芸美術館との3館で連携して発信し、幅広いエリアからの誘客を図ってはどうか。
  - ・ 伝統的な酒造りが、ユネスコの無形遺産に登録されたことを受けて、山田錦の刈取りやきき酒、器づくりの体験型ツアーが人気を集めている。日本酒と組み合わせた丹波焼の里への誘客を図ってはどうか。
  
3. その他
  - ・ 美術館はコレクションを充実させ、展覧会のクオリティを上げることが重要であるが、寄贈も含め、できるだけ良い作品を収集してほしい。
  - ・ 著名作家招聘事業は今年度から事業規模が縮小されているが、開館以来継続している事業であり、若手作家にとってはこれに選ばれることは非常に名誉であり、兵庫陶芸美術館の

知名度にもつながっているので、何らかの形で続けるべきである。

- 学校向けの出前講座や、陶の郷の陶芸教室に参加に要する経費が上がっており、バス代高騰もあいまって、学校が校外学習等で丹波焼の里に立ち寄ることが難しくなってきており、そのことはまずいと感じている。作陶以外であっても、美術館見学という形でもよいので、子供たちが美術館に立ち寄ることができるよう、PRに努めてほしい。